

平成25年度第2回機械工学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成26年1月20日（月）14：00～16：00
- II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室
- III. 出席者：曾我部委員長、田辺委員、角田委員、田中委員、青木委員、高野委員
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 議事内容

1. 教育モデルの提言に対するサイバー研究員の意見について

アンケート結果を踏まえ、意見交換を行い、教育改善モデルの見直しを行った。各委員より、以下のような意見や問題提起がなされた。

- ・ 教員が学生と共に（同じ目線で）学んでいくという姿勢をどのように教育改善モデルの文章に反映したらよいかは難しい。
- ・ 学生が主体的に自ら考えるという視点を教育改善モデルの文章に、より明確にできないか。
- ・ 大学における教育の基本は、「学び方」の訓練であり「考える」という学びの本質的な行為を入学後早い段階で会得することである。
- ・ 大学で学ぶということは、主体性を「育む」というより「引き出す」と捉えたほうが良い。
- ・ 多面的な考え方や捉え方ができるかどうか重要である。
- ・ 学生間のレベル差をどうするか？ 価値観や能力差、やる気の差をどのように埋めるか？
- ・ MOOCのような教育を補完する仕掛けをどのように活用するか。MOOCでは、ネットを活用したオンライン学習コミュニティが発生している。
- ・ 教育と研究の区分をどのように考えるか。
- ・ 大学における「教育」の評価方法や定量的な評価尺度を確立する必要がある。
- ・ 大学の卒業評価（出口）を厳しくできるか、現状では難しい。
- ・ 私立では大学や学部、学科、講義や演習ごとに目標や位置づけが違う。
- ・ 産学共同PBL講座のような成功は特筆すべき事例である。
- ・ 早い段階から経験させ、学部や学科の教育プログラムの中で継続的にケアする仕組みをどのように構築するか。
- ・ ICTスキルはすでに中高でもすでに始まっており、むしろ今後は大学より進んでいくかもしれない。
- ・ 高大連携を積極的に活用することは方法としてある。AO入試との連携なども可能である。
- ・ 機械工学分野の今後について、どのように考え、どのように実践していくかが大きな課題である。
- ・ 授業づくりや授業のやり方の実験が必要である。

以上の意見交換を踏まえ、資料②の教育改善モデルについて、以下のような修正を行うこととした。

(1) 主体的な視点について

教育改善モデルの第3節の【3】教育力を高めるためのFD活動と大学としての課題（1）FD活動の①の前に以下の項目を加えることにした。

「① 学修目標に対する学生の意識・動機づけを行い、主体性を引き出し伸ばす工夫が必要である。」（以後、番号を1つずつ送る）

(2) 教員が学生と共に学ぶという姿勢について

教育改善モデルの第3節の【2】教育改善モデルに求められる教育力の⑧の文章を以下のように修正することにした。

「⑧ 学修の振り返りの場を適切に設定し、学生とともに学ぶ意識を持つことができること。」

2. 今後の研究の進め方について

来年度以降の委員会の進め方について意見交換をし、各委員より以下のような提案や意見が出された。

- ・ 反転授業の実験を行ってはどうか。
- ・ 機械工学のエッセンスを拾い出し、興味を持たせるコンテンツの作成を行ってはどうか。
- ・ 学生を機械工学に引き付ける機会を設定してはどうか。
- ・ 機械工学の関わる分野は幅広く存在することをアピールする必要がある。
- ・ 機械工学の魅力を学生に語らせるコンテンツ（プロモーションビデオなど）を作らせ、コンテストを行ってはどうか。
- ・ NHK 関連会社のライブラリに有る機械工学に関する使用可能な無料のコンテンツを活用してはどうか。
- ・ 作成したコンテンツを使って、委員会委員以外の教員との議論の場を設けてはどうか。

以上の意見交換を踏まえ、来年度は、学生に学修意欲を高め、関心を持たせるための「仕かけ」について、具体的に議論することとした。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は4月14日（月）17：00に開催する予定とした。